

# できごと

いろいろなことがありました

## 縁結びのまちで、結ばれし良縁 10月

10月5日、出雲大社権宮司 千家国麿さまと高円宮家の次女典子さまの結婚式が出雲大社で執り行われました。

ご結婚を祝う煙火の音とともに、「おすべらかし」と呼ばれる髪型に袴(けいこ)姿の典子さまと、衣冠を身にまとった国麿さま、両家のご親族が貴賓館から拝殿まで参進され、参道にはお二人を祝福しようと、多くの市民や観光客が集まりました。

一方、市を挙げてお二人のご結婚をお祝いしようと、市や市内商工団体、農業団体などで組織された奉祝事業実行委員会が8月に立ち上げられ、結婚式当日に出雲大社神楽殿前では正月の伝統行事「吉兆行事(県指定無形民俗文化財)」などを行い、お二人の門出を祝福しました。また、出雲大社周辺の各商店、事業所等では「奉祝提灯」を軒先に掲げるなど、お祝いムード一色となりました。



### 出雲市×ゼクシィ

## 「まちキュンで当地婚姻届」 「ご縁結び処」しあわせサービス始めました

10月3日、結婚情報誌「ゼクシィ」と出雲市が共同で、「まちキュン・ご当地婚姻届」のダウンロードサービスを、11月4日には、「ご縁結び処」しあわせサービスを始めました。

「ご縁結び処」しあわせサービスでは、二人の記念用婚姻届や結婚記念ファイル、結婚記念スタンプ、記念撮影コーナー、婚活情報の提供等、結婚を応援するサービスを行っています。

二人の記念用婚姻届を持参した先着150組には、記念用婚姻届を保存するオリジナルファイルを、婚姻届を提出された先着500組には「エンゲージメント・プロジェクト」の一環として作成したアクセサリ「mus.hi-mo(むすひも)」をプレゼントしています。

“縁結びのまち  
出雲”  
の魅力発信

## 「縁結び定住課」 新設

本市に「住み続けたい」、「住んでみたい」と思ってもらえるまちづくりを進める「定住人口キープ17万人プロジェクト」の具体的な施策を展開するため、4月、新たに「縁結び定住課」を設置し、定住促進や未婚化・晩婚化対策、出雲の真のブランド化に向けた施策推進に総合的に取り組んでいます。



錦織監督とEXILEのHIROさんらによる  
映画「たたら侍」の制作発表

市では、出雲の歴史や文化、自然、産業、イベントなどの地域の魅力を積極的に市内外に情報発信することで、多くの人が「訪れてみたい」「住んでみたい」「住み続けたい」と感じられる魅力あふれる出雲のイメージを創出する「出雲シティセールス事業」に取り組んでいます。

このシティセールス事業では、出雲ブランドの情報

発信の強化を図るため、本市出身の錦織良成監督の『たたら侍』と堀内博志監督の『縁(えにし)-THE BRIDE OF IZUMO-』の映画制作を支援し、映画を活用して、出雲の魅力を全国へPRしています。また、なでしこリーグ参入を目指す地元女子サッカーチーム「ディオッサ出雲F.C.」を支援するとともに、県内初となるなでしこリーグ公式戦を開催するなど新たな出雲の魅力づくりを始めました。

出雲  
シティ  
セールス



堀内監督らによる映画  
「縁-THE BRIDE OF IZUMO-」の制作発表



なでしこリーグ参入を目指すディオッサ出雲F.C.の皆さん

## 行財政改革 の推進

市の財政状況が大変厳しい中で、4月には「出雲市行財政改革大綱」及び「第1期実施計画」を策定し、また行政改革部を新設するなど財政健全化を進めることにしました。今年度から平成28年度までの3年間を行財政改革の集中改革期間と定め、さらなる行財政改革に取り組んでいます。

市の将来を支える世代に重い負担を強いることなく、今後も安定した公共サービスを提供していくために、真に必要な事業に重点的に取り組み、簡素で効率的な行政を目指していくことにしています。



# 出雲市生まれのトキ、 佐渡島で 放鳥・産卵・ヒナ誕生



佐渡島でエサを探す出雲市生まれを含む3羽のトキ

2014年  
平成 26 年

主な  
この一年、

出雲市トキ分散飼育センターで生まれて佐渡の野生下で放鳥されたトキは14羽を数えます。今春は出雲で生まれたトキが野生でペアとなりヒナが生まれるなど成果が表れてきました。これからも野生下でトキが安定して存続できるよう、分散飼育の役割を果たしていきます。

1月

## 「神門通り」手づくり郷土賞受賞

ふるさと

国土交通大臣が表彰する「手づくり郷土賞」に、「神門通り甕りの会」と島根県、出雲市による取組「甕った出雲大社の門前町一神門通り」が選ばれ、認定証授与式が1月31日、古代出雲歴史博物館でありました。

神門通りは、かつてのにぎわいがなくなっていた中、「平成の大遷宮」や「神門通り」の再整備などを呼び水として、神門通りを愛する商店主や住民、ファンが一体となり平成20年に「神門通り甕りの会」が発足。イベント事業、情報発信事業、修景事業、おもてなし事業を実施してきました。



神門通り

## 「出雲縁結び空港」

3月

### 開港史上初の「年間利用者 80万人達成」

3月15日、「出雲縁結び空港」の平成25年度の利用者が、昭和41年に開港して以来、初めて80万人を突破しました。また、札幌線直行便が8月の1か月間、4年ぶりに運航再開しました。



3月

## 国道431号 東林木バイパス全線開通

3月28日、矢尾町から東林木町までの4.2kmの「国道431号東林木バイパス」が開通しました。同バイパスは、現道の線形不良や交通混雑の解消を目的として、平成5年に事業着手され、20年余りの歳月を経て、完成に至りました。



7月

## 出雲市原子力発電所環境安全対策協議会設置

中国電力(株)島根原子力発電所(松江市鹿島町)から30<sup>※</sup>圏内に位置する本市は、中電が行う原発の安全対策などについて、市民等から意見を聴取する「出雲市原子力発電所環境安全対策協議会」(会長・長岡秀人出雲市長、34人)を7月に設置しました。この協議会は、行政、市議会、市内各種団体、地域の代表などで構成し、定例会のほか、原発に関する重要な案件が発生した場合には臨時会を開きます。

なお、10月に島根原発の視察を実施し、今年度中に環境放射線等の測定結果を議題とする第2回協議会を予定しています。

7月

## 荒神谷遺跡 世紀の大発見から30年

斐川町神庭の荒神谷遺跡(国指定)は、昭和59年に国内最多の358本の銅剣が発見されて、今年で30年を迎えました。これを記念して、7月12日、荒神谷博物館では記念式典と記念講演会が行われました。

## 全国レベルの大会で活躍

◆「第36回全国高等学校柔道選手権大会」の男子個人81<sup>※</sup>級で優勝した佐々木健志選手(平田高校)、「平成26年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会」の男子棒高跳の部で優勝した澤慎吾選手(大社高校)や「第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会」の個人試合男子の部で優勝した曾田峻平選手(当時中学3年生・大社剣道スポーツ少年団)、「全日本少年少女武道錬成大会」のなぎなた小学4年生の部で優勝した橋垣苺佳選手(斐川スポーツ少年団)、「第19回全国ジュニアゲートボール大会」で男女とも優勝した出雲西高等学校ゲートボール部など、各種スポーツ、年代別の全国大会で目覚ましい活躍を見せてくれました。

◆「第22回高校生ロボット相撲全国大会」に出場した小倉由弘君、岸和輝君(ともに出雲工業高校)が、自立型部門で全国優勝し、文部科学大臣賞を受賞しました。また、全日本合唱コンクール、全日本吹奏楽コンクール、全日本小学校バンドフェスティバル、全日本マーチングコンテストなどの全国大会へも市内の小・中・高校や一般団体が出場するなど、活躍が目立つ一年でした。

10月

## 「出雲駅伝」レース中止

10月13日開催予定だった「第26回出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲駅伝)」は、接近する台風19号による悪天候のため、レースが中止となりました。中止となるのは今大会が初めてで、大学3大駅伝(出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝)としても悪天候での中止は初めてとなりました。